OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	センターだより　大阪大学大型計算機センターニュース　No.31
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1978, 31, p. 1-27
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65395
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

第41回全国共同利用大型計算機センター
運用会議議事要旨

日　　時：昭和53年7月19日（水）

場　　所：北海道大学百年記念館会議室

議　　事：

Ⅰ 報告事項

(1) 各センターの状況について

(2) 各研究会（統計項目、データ・ベース、計算機言語、プログラム相談の機械化、プログラム・ライブラリー、コンピュータネットワーク）について

(3) 負担金検討小委員会について

(4) センター長会議報告について

(5) 事務長会議報告について

Ⅱ 審議事項

(1) ＴＳＳ用キーボードの標準仕様について

東京大学から国産メーカのＴＳＳ端末には、ＪＩＳキーボードが使われているが(1)シフトキーがロックされる(2)復帰シフトのキーが大きく作られていないなどの欠点があることについて説明があり、種々意見交換の結果各センターでユーザーの意見を聴取しその結果を取りまとめ、改良の要望を東京大学からメーカ側に伝えることゝした。

(2) 負担金の一部改訂について

京都大学から負担金の一部を改訂することについて、改訂内容の説明があった後、引き続き負担金検討小委員会から、これに関する検討結果について報告があり、原案どおり了承された。

(3) そ の 他

話題として、大型計算機センターの将来計画に関連した学術情報データ・ベースについての、関係方面における今後の計画に関する検討内容の情報交換が行われた。

昭和53年度　計算機稼動状況

システム　ACOS　シリーズ　77　NEAC　システム　800　記憶容量　4096　KB　（単位　時間）

月	4	5	6	7	8	9	合計	平均
サービス時間	174:01	191:08	208:17	213:21	231:12	217:44	1235:43	205:57
開発時間	0:00	0:00	0:00	1:40	0:00	0:00	1:40	0:16
講習用時間	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00
準備時間	2:10	2:51	4:05	2:07	3:18	2:08	16:39	2:46
アキ時間※	0:05	1:30	2:30	4:48	4:39	1:49	15:21	2:33
業務時間	317:41	261:08	225:01	197:34	72:25	70:31	1144:20	190:43
小計(A)	493:57	456:37	439:53	419:30	311:34	292:12	2413:43	402:17
保守時間(B)	37:28	45:13	56:34	27:08	59:03	41:04	266:30	44:25
故障時間(C)	0:00	1:50	3:03	0:37	3:23	0:47	0:47	1:36
運転時間(A+B+C)	531:25	503:40	499:30	447:15	374:00	334:03	2689:53	448:18
稼動率(A−※)／(A+B+C)%	92.9	90.3	87.5	92.7	82.0	86.9	89.1	89.1
稼動可能率(A／(A+B+C)%	92.9	90.6	88.0	93.7	83.3	87.4	89.7	89.7
運転日数(D)	27	26	29	29	28	25	164	27
一日平均時間(A／D)	18:17	17:33	15:10	14:27	11:07	11:41	14:43	14:43

昭和53年度 バッチ利用状況表

利用形態＼処理月		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合 計
オープン	処理件数	3,253(23.16)	4,141(23.18)	5,178(25.93)	4,933(25.09)	3,567(20.74)	5,301(26.01)	26,373(24.17)
	CPU時間	27,847	39,938	50,282	49,999	40.035	47,964	256,065
デマンド	処理件数	1,601(11.40)	2,270(12.70)	2,462(12.33)	1,896(9.64)	1,582(9.20)	2,210(10.84)	12,021(11.01)
	CPU時間	298,198	283,203	324,851	276.911	290,098	304,598	1,777,859
オープン磁気テープ	処理件数	0 (0)	80(0.44)	350(1.75)	328(1.66)	253(1.47)	274(1.34)	1,285(1.17)
	CPU時間	0	1,165	11,093	23,446	18,176	11,073	64,953
クローズ	処理件数	10(0.07)	27(0.15)	49(0.24)	63(0.32)	65(0.37)	46(0.22)	260(0.23)
	CPU時間	66	1,113	3,772	11,018	5,288	32,359	53,616
その他	処理件数	1,170(8.33)	1,931(10.81)	2,248(11.25)	2,441(12.41)	3,407(19.81)	3,380(16.59)	14,577(13.36)
	CPU時間	31,432	85,777	68,802	82,328	321,463	394,953	984,755
リモートバッチ	処理件数	2,564(18.26)	3,387(18.96)	3,530(17.68)	3,408(17.33)	2,722(15.83)	3,140(15.41)	18,751(17.18)
	CPU時間	139,019	141,378	128,218	159,866	201,737	248,646	1,018,864
会話型リモートバッチ	処理件数	1,716(12.22)	1,804(10.10)	1,894(9.48)	1,329(6.75)	1,239 (7.20)	1,208(5.92)	9,190(8.42)
	CPU時間	93,704	71,196	103,262	89,560	108,882	73,024	539,628
TSS	会話数	3,727(26.54)	4,221(23.63)	4,254(21.30)	5,263(26.76)	4,359(25.35)	4,814(23.62)	26,638(24.41)
	CPU時間	169,181	119,389	128,775	147,151	100,162	100,059	764,717
合計	処理件数	14,041	17,861	19,965	19,661	17,194	20,373	109,095
	CPU時間	759,447	743,159	819,055	840,279	1,085,841	1,212,676	5,460,457

（注）1. （ ）内は%を示す

2. 合計欄の処理件数にはＴＳＳ会話数を処理件数とみなして集計している。

◎　ターンアラウンドタイム　（ｍｉｎ）

ジョブ種別＼月	４月	５月	６月	７月	８月	９月
A	１０.１	１０.７	１８.８	４５.４	４３.２	５９.１
B	３３.４	１８.７	５０.６	１２３.６	８５.７	１６４.３
C	３３２.４	９６.６	１１０.３	１９５.３	２２７.９	６０６.２
オープン磁気テープ	０.０	８.３	９.０	１３.３	１７.４	１２.７
オープン	３.４	３.６	３.９	５.５	６.０	５.７
ドラフター	１００.０	２２.４	２１.４	４０.１	５０.５	５３.３

「速報」及び「お知らせ」の集録

＜速報№54（53．9.14）より＞

Ⅰ．P・C・S室の利用について

センター2階P・C・S室にオフライン・カード・パンチ（複写用）を新しく設置し、インター・プリンタ（翻訳印字用）を新機種に変更しました。これに従来の媒体変換用 FACOM U−200 を加えた3機種によって、P・C・S室のサービスを行います。

これらの機器の利用については、すべて予約制とします。利用希望者はセンター1階ジョブ受付窓口に備えてある「媒体変換用機器使用受付簿」に必要事項を記入のうえ、御利用ください。

なお、オフライン・カード・パンチはスイッチ操作によって、インター・プリンタとして使用することも可能ですので、インター・プリンタをすでに他人が使用されていて、オフライン・カード・パンチが未予約、未使用の場合に、急ぎ翻訳印字作業を行う必要のある方はジョブ受付にて、その旨お申し出ください。

（共同利用掛）

Ⅱ．予算額管理について

去る8月28日よりシステムが持つ標準課金管理システムを、リアルタイム方式からデイリー方式に変更しました。

デイリー方式とは、当日間に使用された金額を翌日のサービス開始前に各課題番号に対して更新作業していくものです。このことによって、当日実際の予算額をオーバーしても計算依頼は停止されず、翌日更新作業を行ってはじめて予算額をオーバーするということになりますので、この点を御留意のうえ計算依頼されますようお願いします。

（共同利用掛）

Ⅲ．予算額の変更手続きについて（再掲載）

申請した予算額を変更したい場合には「利用申請書」の変更の項に√印し、使用中の課題番号、変更する予算金額、氏名と捺印を、又、「支払責任者及び経理責任者申請書」に支払責任者名を記入し、その確認印をとって申請してください。

ここでいう変更する予算金額とは増額の場合は増額金と旧金額の合計額、減額の場合は減額後の金額をいいます。

なお、「利用申請に係るコード表」の提出は不要です。

（共同利用掛）

Ⅳ. カード・ロッカーの使用について

9月30日(土)をもって第2期の利用期限が切れます。第3期の使用受付は9月16日(土)より行いますので、御利用になりたい方は、下記使用申し込みの方法等を参照ください。

記

1. 貸与期間

最長3ケ月とし、四半期に分け受け付けを行います。ただし、各期の中途申込みの場合は最長その残期間となります。

なお、使用票を2色に分け、各保管期限を色別しますので更新等された場合にも必ず所定の使用票に切り換えて下さい。

第1期	4月 ～ 6月	黄 色
第2期	7月 ～ 9月	白 色
第3期	10月 ～ 12月	黄 色
第4期	1月 ～ 3月	白 色

2. 使用申込みの方法等

各期限の開始2週間前から受け付けを行います。使用希望者は1階ジョブ受け付けでカードロッカー使用者名簿に必要事項を記入したうえでロッカーの使用票を受け取って利用して下さい。（学外利用者の更新手続については電話でも受け付けます）

なお、カードの紛失、損傷等に関しては、センターで責任を負いません。

3. 保管期限後の処分

できるだけ多くの人にむだのないように使って頂くために期限切れのものはセンターで次のとおり処分します。

(1) 各期間終了後に期限切れとなっているもの及び、使用者名簿に更新手続きを行っていてもロッカーの使用票（正規の色）を変更していないものはロッカー外に出します。

(2) 各期間終了後2週間を経過したものは、廃棄します。

4. そ の 他

万が一、ロッカーに余裕がなくなれば学外及び阪大吹田キャンパス外の利用者から優先使用させる等制限を加えて行くことがありますので御了承願います。

（共同利用掛）

Ⅴ. バトミントンプリンタ（NB3000）の利用について

このたび、バトミントンプリンタが特殊端末室に2台増設され、使用が可能になりましたのでお知らせいたします。なお、使用期間等は現在のミニプリンタに準じますが、下記にミニプリンタと異なる操作法等について説明いたします。

記

1. 電源をオンにする（電源ボタンは装置の右側面にあります）
2. キー（ [モード] 、 [モニタ] 、 [印字] ）をオンラインにする。他のキーはオフライン
3. LOG ONは [SOH] キー、または、$$$CON、TSS [復帰] キーで行う。
4. LOG OFFは、BYE [復帰] 、または、 [ETX] で行う。
5. 「アラーム」ランプの解除は [リセット] キーで行う。
6. ブレーク手順は [BREAK] キーを押す。
7. 一行当りの文字入出力字数は、標準として80字になっています。なお、入出力文字数を132字または、120字に変更する時は、LINEコマンドで、LINE△132、または、LINE△120 と指定する。
8. オンライン動作実行中の事故発生ランプ点灯の処置方法
   (1) 回線関係
   「通信可」ランプ消灯の時、センター職員に連絡する。
   (2) プリンタ関係
   プリンタ用紙の不足により「アラーム」ランプ点灯の時、プリンタ用紙をセットした後、「リセット」キーを押しても「アラーム」ランプが消灯しない時は、センター職員に連絡する。

（業務掛）

Ⅵ. デマンド・プリント・サービスの一部変更について

9月1日よりデマンド・プリントの操作法が変更になりました。

従来は、ALLP（全登録ジョブ出力）、SELC（キャンセル・ジョブの選択）等の機能がありましたが、9月1日からは課題番号とパスワードを入力することにより、その利用者の全ジョブが出力されます。

旧	新
CTL／A	CTL／A
＊START DEMAND ……	＊START DEMAND ……
＊USER－ID－NNNNNNNN	＊USER－ID－NNNNNNNNN
＊PASSWORD－	＊PASSWORD
××××××××××	×××××××××
＊FUNCTION－NNNN	＊PRINT START NNNNW
＊ACTION－NN	
）	＊NO JOBS IN DEMAND FILE （デマンド・プリントジョブがない時）
＊FUNCTION－BYE	
＊END DEMAND ……	＊USER－ID－ C_R
	＊END DEMAND ……

なお、従来可能であったジョブのキャンセルやジョブのリスティング等はデマンド専用端末ではできませんので、デマンド室の左の入口付近に設置してあるNEACタイパ又は、T・S・Sターミナル（ミニ・プリンタ、又は、NEACタイパ）で行ってください。操作方法については速報№53 を御覧ください。

（システム管理掛）

Ⅶ. 必要以上のメモリーサイズをLIMITカードに指定していませんか？

最近、Cクラスジョブでメモリーサイズ192 KW 以上要求し、 実行待ちになるジョブが多数みうけられます。

また、この実行待ちになると、その後のCクラスジョブが実行されないという状態になってしまいます。（これはCクラスジョブは同時に一件しか実行しないようにスケジュールを行っているためです）

現在、当センターで処理出来る最大メモリーサイズは 192KW ですが、LIMITカードの第2、第3オペランドの絶対値の和とローダ（6KW） 及びSSA（2KW）を加えた値が実質のメモリーサイズとなりますので、184 KWが指定できる最大値となります。この値はLIMITカードの第2、第3オペランドで指定するローダーと共有するメモリーは最低でも－1kを必要としますので、LIMIT カードの指定は

```
1    8          16
$    LIMIT      , 183k, -1k
```

となります。

LIMITカードの第2、第3オペランドの絶対値の和が184KWをこえぬよう、又、プログラムを作成される場合には、184KW以下になるようプログラミングしてください。

FORTRANプログラムでは、変数一語、配列一語が1ワードになります。又、一度実行するとメモリーにロードする時にオブジェクト・プログラム・サイズが出力されます。

nnnk IS THE MINIMUM MEMORY NEEDS TO LOAD THIS ACTIVITY

ので次回からは、nnnkの値をLIMITカードの第2オペランドに指定してください。

メモリーサイズを正しく指定しますとメモリーの空き待ちも少なく、システムの処理効率があがり、ターン・アラウンド・タイムも短くなります。

メモリーサイズは必要以上に指定しないように!!

（業務掛）

＜速報№55（53.10.12）より＞

Ⅱ．MATHLIB－6，TSS／LIB－6の追加、修正等について

10月16日（月）から、下記のような追加と修正を行います。

(1) MATHLIB－6に倍精度版を追加

乱数関係のサブルーチン5個を除く全てのサブルーチンに倍精度版を追加します。使用方法は単精度のものとほぼ同一ですが次の点に御注意下さい。

① 単精度版のサブルーチン名の第1文字がSのものはWに、UのものはVに変えて使用する。

例 単精度　CALL　SAMDET（MA，N，A，LI，DET，IERR）
　 倍精度　CALL　WAMDET（MA，N，A，LI，DET，IERR）

② 引数のデータの型は、実数型、複素数型についてはそれぞれ倍精度実数型，倍精度複素数型とする。

(2) MATHLIB－6の収束判定指数、ゼロ判定指数

収束判定指数、ゼロ判定指数LIの既定値を次のようにする。

LI＝6（単精度）　，　LI＝12（倍精度）

(3) TSS／LIB－6の修正

①段階式重回帰（PSTPRG）

○分散分析表の見出しS.D（標準偏差）はM.S（不偏分散）の誤まり。

②主成分分析（PCOMP），因子分析（PFACTR）

○固有値の累積寄与率を固有値と同時に出力するように修正。

○基準値の入力メッセージ中のSTANDARD VALUEをCRITICAL VALUEに変更。

Ⅲ．センター・ライブラリーのソース・リスト公開方法の変更について

従来、センター・ライブラリーのソース・リストを共同利用窓口で公開しておりましたが、このたび、ソース・カード・イメージでファイルに登録しましたので共同利用窓口でのリストの公開は廃止いたします。

1．登録形式

UMC〝CLIBSOURCE〟の下に、それぞれ実行モードにより、〝BIN〟（2進モード用）および〝HEX〟（16進モード用）というカタログをもうけ、各カタログの下にプログラム名をファイル名としてTSSファイル（JIS形式、ライン番号付）で登録してあります。またセンター・ライブラリー一覧表をファイル名〝TABLE〟としてクィックアクセス・ファイルとして登録してあります。

2．利用方法

2.1 TSSの場合

1） センター・ライブラリー一覧表出力

＊LIST␣CLIBSOURCE／TABLE，R

＊BPRINT␣CLIBSOURCE／TABLE，R

2） ソース・プログラムのリスト出力

＊LIST␣CLIBSOURCE／{BIN / HEX}／プログラム名，R

＊BPRINT␣CLIBSOURCE／{BIN / HEX}／プログラム名，R 注）

3） ソース・プログラムのカード復製

＊BPUNCH␣CLIBSOURCE／{BIN / HEX}／プログラム名，R 注）

4） ソース・プログラムのカレント・ファイルへのコピー

＊OLD␣CLIBSOURCE／{BIN / HEX}／プログラム名，R

NFORM形式で使用する時は継続行の数字を＆（アンパサンド）に変更する必要があります。

注）端末との応答は、

LABELS？ S ……ライン番号を削除する

TAB CHARACTERS AND SETTING？ CR ‥タブ使用せず

2.2 BATCHの場合

1） センター・ライブラリー一覧表出力

```
1      8          16
/ $    CPROC      CLIB/TABLE
```

2） ソース・プログラムのリスト出力

```
1      8          16
/ $    CPROC      CLIB/LIST ,, { BIN } , プログラム名
                              { HEX }
```

ファイルの第1レコードにTSS制御情報が入っているためリストには、1行目に≠が印字されます。

3） ソース・プログラムのカード復製

```
1      8          16
/ $    CPROC      CLIB/CARD ,, { BIN } , プログラム名
                              { HEX }
```

ライン番号を削除してカード出力されます。

4） ソース・プログラムの利用者ファイルへのコピー

```
1      8          16
/ $    CPROC      CLIB/FILE ,, { BIN } , プログラム名 , コピー用
                              { HEX }                 ファイル名
```

コピーするための利用者ファイルはACCESSサブシステムあるいはFILSYSプログラムで前もって作成しておかなければなりません。コピーされたファイルはBATCHファイル（JIS・FORM形式，ライン番号無し）に変換されていますので＊Cエディタプログラムで修正可能です。

3. センター・ライブラリー一覧表の項目

CODE	分類コード
NAME	サブ・プログラム名
TITLE	タイトル
DATA TYPE	{ SNGL 単精度 { DBLE 倍精度

TYPE	SUBR	SUBROUTINE
	FUNC	FUNCTION
	PACK	サブ・プログラム　パッケージ
SERVICE	DISK	常時DISK上に登録されているもの
	MT	MTで用意されているもの
RANK 注）	1	センターで独自にテストを行ったもの
	2	作成者自身のみがテストを行ったもの
	3	センターでは文法チェックのみを行ったもの
	4	削除が予定されているもの
LANGUAGE (MODE)	FORT	FORTRANで記述されているもの
	H	16進（HEX）モード
	B	2進（BIN）モード
LIST 注）	A	ソース・リストを公開するもの
	B	ソース・リストを公開しないもの
	C	ソース・リストの公開は作成者との相談によるもの

注）RANK，LIST欄が＊のものは、ACOSへの書き換え中で現在は利用できません。

4. 注 意 事 項

1）　ソース・リスト非公開のライブラリー・プログラムをTSSモードでアクセスすると、エラー・メッセージが出力されます。

2）　BATCHジョブでの$CPROC文は、$JOB文の後であれば、任意の位置に複数枚置くことができます。

3）　BATCHジョブでソース・リスト非公開のライブラリー・プログラムをアクセスすれば、ジョブは実行されません。

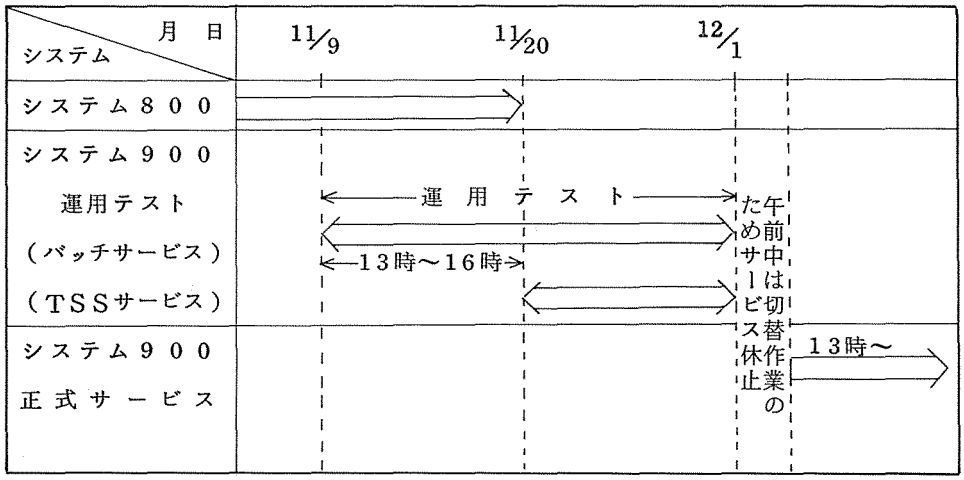
＜速報№56(53.11.1)より＞

Ⅰ．ACOSシステム900の運用について

センター・ニュース№30（昭和53年8月）にて広報しておりますが、その後、下記のとおり一部計画が変更になりましたのでお知らせします。

記

1．移行計画日程



2．システム900の運用テスト開始について

システム900の搬入に伴い、次の要領で11月30日まで運用テストを行い、12月1日13時より正式サービスを開始する予定です。

(1) オープンバッチの運用テスト

○期　　間　：　11月9日（木）～11月17日（金）

○サービス時間　：　月曜～金曜　　13時～16時

○サービス形態　：　オープン入出力方式

1階のオープン入出力室のカードリーダ及びラインプリンタに「システム900用」と表示します。これを使用して、ジョブ入力、計算結果出力について利用者自身に管理していただきます。

○利用できるジョブクラス等　：　期間中利用できるジョブクラスはオープンクラス、A及びBクラスに限ります。

なお、システム900の専用ファイルは利用できません。

(2) バッチ（リモートバッチを含む）及びT.S.Sの運用テスト

○期　　間　：　11月20日（月）～11月30日（木）

○サービス時間　：
○サービス形態　：　現行のシステム800と同様の時間及び形態で行います。

(3) 運用テスト期間中の課金の取扱いについて

運用テスト期間中、システム900を利用した場合の課金（負担金）の取扱いは次のようにいたします。

(ア) 11月9日（木）～11月17日（金）の間は、課題番号当たり2万円相当まで利用できることとし、負担金は免除する。

(イ) 11月20日（月）～11月30日（木）の間は、課題番号当たり5万円相当まで利用できることとし、負担金は免除する。

(ウ) テスト期間中に計算したジョブで12月1日以降に出力した場合には出力に対して課金致します。

(4) ジョブ制御言語（JCL）は、システム800と同様です。

3．ファイル及び端末の移行について

システム800で利用されているファイル及び端末のシステム900への移行については、11月18日（土）のサービス終了後、当センターが行います。

4．12月1日（金）のサービスについて

12月1日（金）の午前中はシステム900への切替作業のためサービスを休止いたしますので御了承願います。

（業務掛・共同利用掛）

Ⅱ．電子回路解析システム（ANAP－6）の運用開始について

ANAP－6には最新の優れた解析方法とプログラミング技法が採用されており、従来の電子回路解析システム（NECTAR－6）に比べて信頼性、性能ともに優れ組み込み型デバイスモデル機能が追加されており、バイポーラおよびMOSトランジスタ回路を解析する場合、記述の簡略化、処理速度、使用メモリーの面で大幅な性能向上がなされています。

なお、ANAP－6はNECTAR－6の改訂版で若干の仕様方法が異なります。詳細については次のマニュアルを参照して下さい。

○電子回路解析システム説明書＜ANAP－6操作編＞
○電子回路解析システム説明書＜ANAP－6言語仕様編＞
○電子回路解析システム説明書＜ANAP－6機能編＞

使用方法

(1) ANAP 20の場合

```
カラム   1      8          16
         $      JOB
         $      PROGRAM    ANAP20                ①
         $      LIMITS     , 67K                 ②
         $      PRMFL      **, R,R, LIB/NTR20    ③
         $      PRMFL      01, R, R, LIB/SYS. MEFILE
         $      FILE       02, X2R, 5R
         $      FILE       03, X3R, 8L
         $      FILE       08, X8R, 13L          ④
         $      FILE       09, X9R, 16R          ⑤
         $      DATA       I*
         1   ANAP
                  ANAP−6      ステートメント
         1   EOF
```

(2) ANAP 40の場合

ANAP 20のJCL上の①〜⑤のカードを次のカードにそれぞれ置換えたものです。

```
カラム   1      8          16
         $      PROGRAM    ANAP40                ①
         $      LIMITS     , 87K                 ②
         $      PRMFL      **, R, R, LIB/NTR40   ③
         $      FILE       08, X8R, 23L          ④
         $      FILE       09, X9R, 32R          ⑤
```

(3) ANAP 80の場合

```
カラム   1      8          16
         $      PROGRAM    ANAP80                ①
         $      LIMITS     , 127K                ②
```

$	PRMFL	＊＊, R, R, LIB／NTR80	③
$	FILE	08, X8R, 44L	④
$	FILE	09, X9R, 63R	⑤

> 注意　11月6日にNECTAR－6からANAP－6に置換え作業をしますので11月7日以後NECTAR－6のユーザーはANAP－6をご利用下さい。

（システム管理掛）

Ⅲ．システム900における浮動小数点演算について

FORTRANにおける浮動小数点演算のモードを選択するオプションを省略した場合の処理がシステム800とシステム900とでは異なります。

すなわち、このオプションを省略すれば、システム800ではBINオプションになりシステム900においてはHEXオプションになります。なお、$FORTRANと$GOのオプション指定は同一オプションを指定してください。

○JCL

カラム	1	8	16
	$	SNUMB	受付番号
	$	JOB	課題番号$パスワード等
	$	LIBRARY	ファイル・コード
	$	FORTRAN	{HEX／BIN}
	$	GO	{HEX／BIN}
	$	ENDJOB	

○RUNコマンド

RUN ＝{HEX／BIN}

（研究開発部）

ＴＳＳ利用者との懇談会における質問とそれに対する回答等の紹介

去る７月２８日に、ＴＳＳ端末利用者を対象に「ＴＳＳサブシステムの有効な利用方法について」をテーマとして、ＴＳＳ利用者説明会を開催したところ、その懇談会の席上で利用者からＴＳＳコマンド、ファイルの利用方法等について種々質問・要望が出されました。ここにその主なものを参考までに御報告します。

（問）　＄＄＄SETコマンドをコマンド処理においても使用出来ないのか？。

〔回答〕；＄＄＄SETコマンドは、Ｎ６０４０系端末よりネットワーク処理スーパバイザ(NPS)に対し、どの装置に対してPolling or Selectingをかけてくれる様に指示する為のコマンドであり、この＄＄＄SET，×，×，×のデータはＮＰＳ内で捨てられDAC（TSS）プログラム迄は渡りません。

それで、＄＄＄SETをコマンドファイルに登録したとしても、TSSの方は、何かの入力要求に対しての単なるデータと見なします。その入力要求が、コマンド入力要求の時は、COMMAND UNKNOWN 等のエラーメッセージが返えって来るはずです。又、＄＄＄SET を挿入する位置によっては影響はないかもしれませんが、端末からのデータ連続入力時、端末側オペレータが、思っている装置からの入力が、確実に行なわれるかどうか分りません。（ＮＰＳ側は、ＴＳＳより、＄＄＄SETの情報が通知されない為、どの装置より、連続入力を行なったら良いか 分らない。）

（問）　データステーションのカード・リーダからCARDINを利用しREAD CARD コマンドによりライ ンナンバーの付いていないカード、イメージの入力をカレントファイルに出来ないのですか。

〔回答〕；カレント・ファイルに対する入力処理は単に入力処理を行うというのではなく、入

力しようとするProgram Statement（含Data）を基にカレント・ファイル内の内容を追加、修正、削除しながら入力するという処理であり、追加、修正、削除処理はラインナンバーを基に行っているため、したがってラインナンバーの付いていないProgram Statementのカレント・ファイルへの入力は禁止している。

（問） CARDIN JOBで、多くのプログラムがあれば1つずつSNUMBを入れるのは面倒なので、課題番号から、JOUTに入っている出力を打ち出せるようにして欲しい。

〔回答〕；1つの課題番号の下には、センタ・バッチ、リモート・バッチ、TSSにより投入した各種のJOBが存在する可能性がありますので、JOUTに課題番号で指定することにより、CARDINにより投入された全JOBを一括出力することはできません。ただし、CARDINで投入する際ジョブ制御言語（JCL）に若干の考慮を払うことにより（各JOBをアクティビティとして、全体で1つのsnumbとして登録する）、JOUTサブシステムを利用して、出力する時1つのsnumb名を指定することにより結果的には、一括してJOB結果を得ることができます。しかし、JCLへの考慮よりも、JOUTに1つずつsnumbを指定する方が、結果の取扱い、操作の簡易さの点でbetterと思われます。

（問） EDITORにカラム指定でのEDITが可能にしてほしい（以前のEDITORはそうであった）。

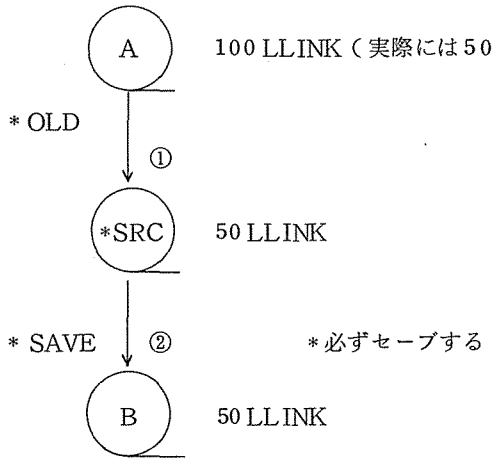
〔回答〕；現在のEDITORサブシステムではテキスト行のストリング・サーチを指定された範囲内だけに制限する‘CLOS’コマンドがサービスされています。

（書式）	（機能）
CLOS ：（mm－nn）	テキスト行のストリングサーチを、カラムmmからnnの範囲に限定する。 0＜mm＜nn ； 10進整数

＊CLOSコマンド機能のキャンセルは、NOCLOSコマンドにて行う。

（問） パーマネント・ファイルの内容をERASEしても、CURRENT FILE SIZEのスペース分をシステムに返すことが出来ない。
CURRENT FILE SIZEの変更方法は？

〔回答〕； ERASEではパーマネント・ファイルのサイズを縮小することはできませんが、以下の方法により、結果的には可能です。



その後Aをリリースすれば、file名は変わりますがCURRENT FILE SIZEを変更することができます。

（問） FORTRANサブシステムでデータをファイルから読み込みその計算結果を同じファイルにセーブ出来るか？

〔回答〕； SYSTEM? FORT△OLD△ファイル名
＊RUN＃INPUT“05”；06
\
＊REMOVE△05
＊PERM△06；INPUT

TSS FORTRANサブシステムを使って、実行する時入力となるファイル（INPUT，代替名：05）と出力（カレントファイル：06)をRUNコマンドのオプションで指定します。
実行が終了すれば、まず05の代替名をAFTから消します(REMOVEコマンド)。

そして、カレントファイル(06)をパーマネントファイル(INPUT)にコピーします(PERMコマンド)。又、ファイル(INPUT)をパーマネントファイルとしてプログラム内で入出力する方法があります(ファイルをUP DATEする)。

(問) ① FILE A + FILE B $\xrightarrow{\text{実行}}$ 結果ファイルC

② FILE A …… FORTRANプログラム SY**

③ FILE B …… カードイメージデータ SY**

TSSで以上の操作方法を教えて下さい。

〔回答〕 ; ② * ⋮

* SAVE △ A(又はRESA△A)

③ *

⋮

* SAVE △ B(又は RESA△B)

① * RUN△A＃B"05"; C"06"

Aは入力イメージファイルで代替名を 05 とする。

READ(05, ……)に相当。

Cは出力イメージファイルで代替名を 06 とする。

WRITE(06, ……)に相当。

(問) 他の課題番号を持つファイルから自分のファイルへデータをコピーすることは出来るが、自分のファイルのデータを他のファイルへコピーする方法はないのか?

〔回答〕 ; 課題番号の下のカタログの変更をする時

SPECIFIC △ PERMISSION ? の所で ACCESS-TYPE, /DSERID/ の指定が出来ます。この指定をすることにより可能。

課題番号1でログオンする。

* FUNCTION ? CM又はMF

CATALOG STRUCTURU ……? ——

CATALOG TOBE MODIFIED ?　　カタログ又はファイル

SPECIFIC PERMISSION ?　W，E／課題番号0／SUCCESSFUL.

⋮

* NEWU

⋮ 課題番号0でログヤンする。

* OLD △ AA △

* RESA △ 課題番号1／カタログ／ファイル名

（注） FUNCTION ?　MC又はMFで

ある課題番号の下のカタログ及びファイルが使用可能になる。

（問） 1)コマンドファイルでサブコマンドも登録して使用出来ないか。2)defaultで(CR)だけ入力するものは続けて入れられないか。例えば、SCANで

ACTI 02 SCAN06 USER (CR) YPRINT△ALL

〔回答〕；1) TSSに於てサブコマンドの定義がなく質問の意図が計りかねます。サブシステムに於けるコマンドという意味でしたらコマンドファイルへの登録も可能です。　ただし、一括入出力のコマンド（READ CARD，PTON）は除きます。

2) TSSでの非会話型使用方法に関する質問と思われます。

例では、(CR)はdefault表示としての'CR'を意図するものでも入力の終了の'CR'として扱われます。

以下のコマンド・ファイル機能を利用することにより可能です。

（例） SYSTEM ?　JOUT nnnnT.

FUNCTION ?　ACTI 01 SCAN06 USER 'CR' PRINT△ALL

⇓

SYSTEM ?　CRUN△"JOUT nnnnT & ACTI01 & SCAN06 & USER & $*$NULL & PRINT ALL"

（注） コマンド・ファイル処理を利用する場合、'CR'は$*$NULLと表示します。

また入力コマンドは"　"で囲みデリミッターは&です。

（問） FORTRAN プログラムの実行時、入力間違いがあった場合、「FILE CODE 05 ILLEGALCHAR ：CORECTION ＝」
のメッセージが出力されるが、3度以上出力されると、自動的に実行打切りとならないのか。

〔回答〕；TSS ORTRAN使用中上記メッセージが出力されると、再びデータ入力モードとなり、正しいデータが入力されるまでメッセージは出力されます。
従って、3度という特定回数のエラーメッセージ出力で実行打切りということはできません。

（問） TSS プログラムで作成したファイルを後にセンターOUT PUTする際(BPRINTやSCAN）重ね打ちが出来ないのですが、何かいい方法は？

〔回答〕；BPRINT、SCANを利用してファイルをセンターoutする際、フォーマット・コントロール — 重ね打ち等 — をしてないので重ね打ちができません。
しかし、JOUTサブシステムを利用することにより、CARDINで disposition? に対し、J（JOUT）を指定したJOBの出力を重ね打ちの コントロールを実現しセンター出力することができます。

* JOUT △ snumb名

function？ Direct ONL

TSS プログラムで作成したファイル（カレント・ファイル、パーマネントファイル）を印字制御をし、センターoutputするコマンドが現在ないので、ファイルをREADし、そのイメージをWRITEする様なプログラムを作成しCARDIN サブシステムで動かす方法が考えられます。

（問） 統計解析パックなどをTSS で使えないか、TSS でFORTRAN プログラムで計算したDATAをSTATPAC で処理したい。
一端、出力をファイルして、JIS → BCD ・変換をして、CARDINでSTATPAC システムを働かす方法しかないのか？

〔**回答**〕；現在は使用できません。但し、基礎統計量、相関・回帰分析、分散分析、ノンパラメトリック分析、検定、多変量解析の１部については TSS／LIB－6 を利用できます。

STATPACと、TSS／LIB－6 のプログラム数は次のとおり。

	STATPAC	TSS／LIB－6
基礎統計量	7	1 (STATPACを含んでいる)
検　定	2	2
分散分析	4	3
相関・回帰分析	8	5
多変量解析	12	5
ノンパラメトリック分析	13	8
クラスタ分析	3	0

上記の通り、TSS／LIB－6 にないプログラムについては、JISBCDの変換を行うか、又は、 RUNコマンドでBCD オプションを指定して下さい。

（**問**） ミニコン端末　?，%，! を紙テープパンチ出力時のみ　%／，%%，%0　に変更出来ないか。

〔**回答**〕；当初 N6040 は N6020 と同様に　?→%／，%→%%　の様に２文字で出力していましたが、学会提出用リストとして　?が%／，%が%%，… 等で出力されたものは不適格であると言う事で、変更要求がありましたので、端末側で　%／→? に再変換を行なう事にしました。

?，%，! 等　特殊文字の存在するプログラムを紙テープパンチする必要のある利用者（ミニコン端末）は、PATCHを発行しますので要求して下さい。

これにより、紙テープパンチを行なう時はオンラインプログラムロード後、このPATCH　TAPE を入力し、特殊文字を２文字のまま出力する様にして運用して下さい。

通常、リスト出力が主の場合は、PATCH　TAPE を入力せず運用すると言う様に運用して下さい。

（**問**） TIME－OUT で DIS－CP 後、CONNECT して以前の File を使おうとしても

File busy が出る解消法は？

〔回答〕；CONNECT コマンドを使用すれば、もとの状態に戻ります。

＊ SYSTEM？　CONNECT△××××

↑

チャンネル番号４桁

TIME－OUT　DIS－CP の後、再度CONNECTして、以前に接続されていたCHANNEL番号を上記のSYSTEM？レベルでCONNECT コマンドを入力することにより、前のFileを使うことができます。

（問）　DAC 機能は一般に禁止されていますが、申請すれば使えますか？

〔回答〕；DAC 機能を許可すると、ターンアランドタイムが長くなり、システム効率が低下する。又、コマンド入力等をしなくても、TIME OUT にならず、他の端末に影響を及ぼす為、禁止しています。

（問）　10分の TIME OUT の前に警告を出してもらえないか？

〔回答〕；TSS 使用時、10分間のタイム・アウトが発生する状態（例えば、オペレータが入力促進時点から10分以上不在等）で、警告を出しても意味がないと思われます。また、TSS利用時タイム・アウトを発生させる様な利用方法はシステム の有効利用の点に於も問題があります。

万一、タイム・アウトが発生する様な状況でもコネクトコマンドの使用により、円滑にシステムを利用できると思います。

（業務掛）

「プログラム交換のページの開設について」

センター・ニュースNo.２１（１９７６．６発行）で、「プログラム交換のページの開設について」を広報していたところですが、再度お知らせします。

このページは、毎年多くの計算機プログラムが開発されている中で、汎用性のあるプログラムをより多く利用するため、すでに開発されているプログラムを利用したいユーザ、又は譲りたいユーザー、相互のプログラム交換を手助けしょうという主旨を持つページです。

もし、皆様がプログラムを「譲りたい」「求めたい」と思われたら、次の投稿記入項目の必要個所を記入し、大阪大学大型計算機センター庶務掛へ送付して下さい。

できる限り、最新のセンター・ニュースに掲載します。

このページをプログラム公開と譲り受けの場として御気軽に御利用下さい。

プログラム交換のページの投稿記入項目

※印の付いた項目は必ず記入して下さい。

※ 1. 要　望
〔譲ります〕か〔求めます〕かいずれかを記入。

※ 2. プログラム名
内容を示す名前（例えば連立一次方程式数値解法）と引用する時の名前（例えばＳＬＩＮＥＱ）を記入。

※ 3. プログラムの内容又は解法
アルゴリズムの特徴について説明すること。例えばプログラム作成上で特に工夫された点があれば、それらを記入する。

※ 4. 利用者の義務
このプログラムを利用した仕事の公表に際して、その旨明記する必要があるのか否かについて記入（“ 譲ります ”の場合のみ）

※ 5. プログラム作成者名、連絡先及び連絡方法

6. 現在このプログラムが利用されている、あるいはやがて利用されるであろう分野
例えば物理学・物性論、化学・高分子結晶解析など。

7. プログラム使用上の制限事項
データ入出力における周辺機器やオペレーション上の制約や情報を記入。あるいは、例えば最大１００次元の連立一次方程式までしか解けませんなどのアルゴリズム上の制限など も記入する。

8. 使用されたプログラミング言語
ＦＯＲＴＲＡＮ，ＣＯＢＯＬ，ＡＬＧＯＬ，ＰＬ／１など。

9. プログラム・ステップ数
例えば、ソース・カード・イメージでの枚数など。

10. プログラム実行時に必要な最大メモリー・サイズ

11. 代表的例題に対する計算所要時間

12. プログラムの形式
コンプリート・プログラム、サブルーチン副プログラム、関数副プログラムなど。

13. プログラムの開発された計算機
機種名及びＯＳについて記入。

14. 利用可能状況
ソース・リスト、ソース・カード、マニュアル、計算例などのプログラム利用に関する情報の整備状況について記入する。

15. 関連又は補助プログラム

16. 参考文献

備考　1. 詳細な書式については適宜の方法で結構です。
2. ※印以外の項目については不明又は不要と思われる場合は省略してもかまいません。
3. このページは利用者間のプログラム開発に関する情報交換のためのものです。したがって、プログラムの交換についての具体的世話は大型計算機センターでは一切いたしません。